

時間を旅する絵本
「京都岡崎の文化的景観」

2

都市をめぐる水の冒險

白川と疏水



明治二十三年、琵琶湖の水を京都に引きこむ大きな運河がつくられました。「琵琶湖疏水」という名前です。京都に住むたくさんの人々の暮らしを支えるために、水がもたらすさまざまな力が必要とされたのです。

工事はまだ人の手でおこなう時代で、トンネルをほつたりするのはとても大変でした。

建設の材料も牛にひかせて運びました。五年の月日をかけてできた

疏水によって、岡崎では水をつかった特別なまちづくりがはじまりました。



疏水がつくられたことで、琵琶湖から京都までの水の路ができました。

大津からお米や木材を舟でらくに京都まで運べるようになつたのです。

蹴上あけの坂道にはレールを敷いて、舟を台車に乗せて運びました。

水の力をつかつた発電もはじまりました。

電気によって電車も動き出します。

明治四十五年にできたレンガ造りの発電所を、今も蹴上の交差点から見ることができます。



南禅寺のまわりには、
東山の景色の良さから、
たくさんの別荘がつくられました。
そうした別荘には、
疏水の水をひいた
きれいな庭園が生まれました。
もともと自然の水で
お庭をつくっていたお寺でも、
豊富になつた水をふんだんにつかって、
お庭を新しくしました。

水の路を通つて琵琶湖から
魚たちもやってきました。
今、南禅寺のまわりを歩くと
水のせせらぎが
そこかしこから聞こえます。
水の豊かな庭園もたくさんあつて、
生き物たちのすみかにもなつています。
琵琶湖疏水のめぐみです。



畑や水田が広がっていた

岡崎の中心では

博覧会が開かれました。

博覧会に集められた

めずらしいものを見るために、
たくさん的人がやってきました。

夜には電気をつかった

ライトアップがおこなわれ、

電気で光るかざりのついた

電車も走っていました。

現在の岡崎でも

たくさんのもよおしが

おこなわれています。

広い土地に広い道と

大きな建物があることも、

明治時代から、

大きい道ができます。

岡崎の風景です。



琵琶湖疏水が通る前も、
白川沿いには、
水車をつかつた

精米工場が

たくさんありました。

疏水が通つてからは、

精米以外にも、

水車の力で銅を伸ばす
工場などもできました。

特に、夷川船溜の

まわりでは

たくさんの水車が回り、
機械の動く音が

あちこちから
聞こえていました。

疏水は、
プールになりました。

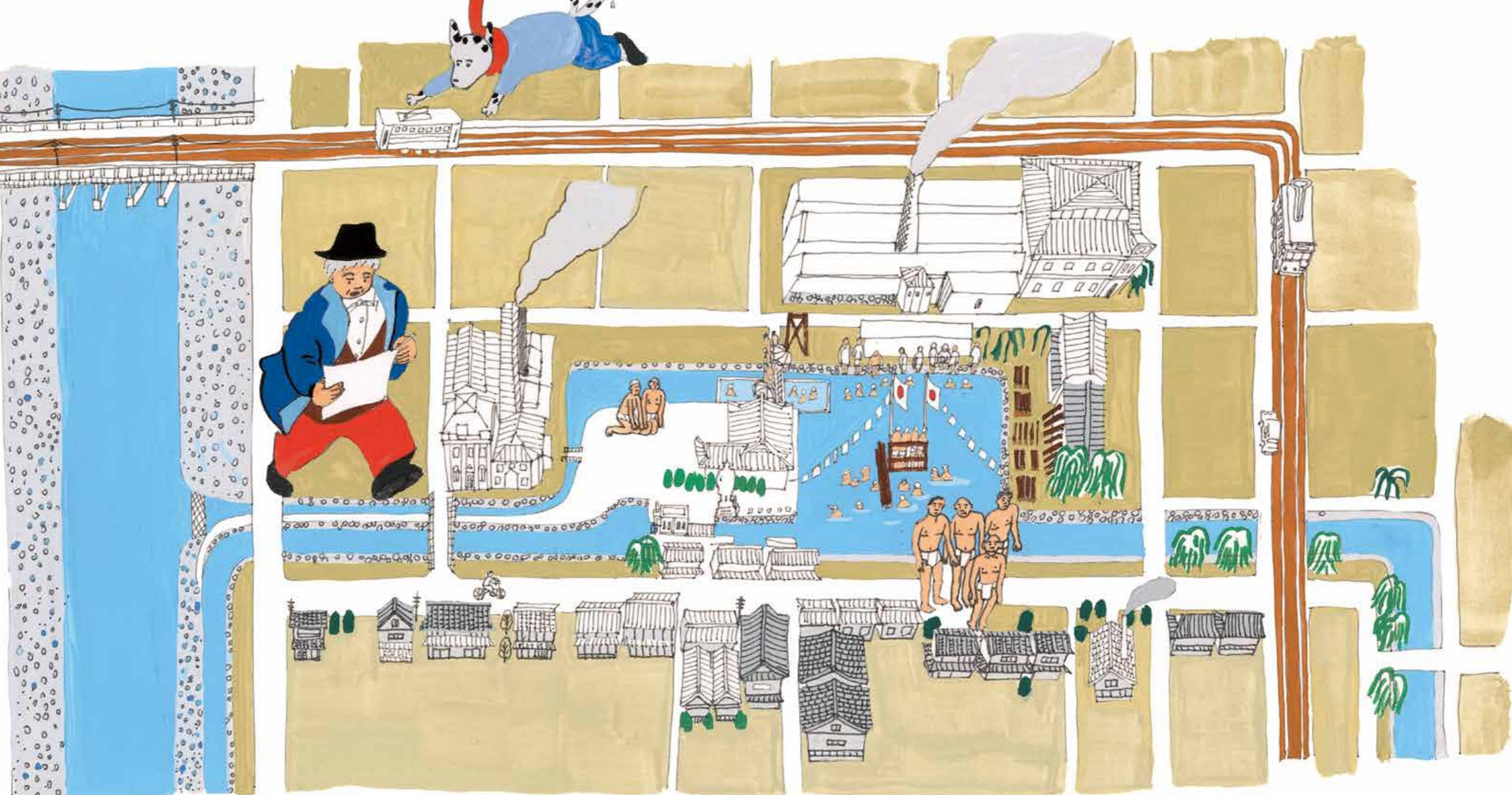
たくさんの

子どもや大人が、
この水泳教室に

かよつていました。

みなさんのもとに、
疏水プールで泳いだ

ことのあるひとが
いるかもしれません。



子どもや大人が、
この水泳教室に
かよつていました。
みなさんのもとに、
疏水プールで泳いだ
ことのあるひとが
いるかもしれません。

明治二十七年には、
鴨川と伏見をつなぐ
琵琶湖疏水もできました。

大津から京都、京都から伏見、
伏見から淀川をとおって、

大阪まで舟で行き来が

できるようになったのです。

車や鉄道より

舟が輸送の主役だった時代、
それは画期的なことでした。

琵琶湖・大阪間の舟運は、

今はもうありませんが、

いくつかの場所で
舟での疏水めぐりが

復活しています。

琵琶湖疏水を知ることで、
岡崎の風景が

水と深くかかわっていることが
わかってくるのでは
ないでしょうか。



岡崎の風景と水のかかわり

比叡山と大文字山の間の山並みは花崗岩でできています。地表では風化が進んだ花崗岩はもろくて崩れやすく、ここから大量の砂が水と共に押し流されました。水の流れは白川となり、山麓には白川扇状地ができました。今の岡崎の土地は白川の砂でできているのです。

岡崎は平安京の外側でしたが、平安時代後期になり、京の町中と同じようにタテヨコの道で街区がつくられました。貴族の別荘や巨大な寺院、上皇の御殿が建てられて、岡崎は都の副都心になりました。

貴族の世から武士の世へ。鎌倉時代を経て室町時代になると、別荘や寺院は廃れ、かわって鎌倉時代に創建された南禅寺が大きくなり、街に通された琵琶湖疏水で、もうひとつの食文化を支えるようになりました。

この岡崎の風景は近代になってまた大きく変わります。ひとつは明治二十三年（一八九〇）に建設された南禅寺が大きくなり、都の食文化を支えるようになりました。

この岡崎の風景は近代になってまた大きく変わります。ひとつは明治二十三年（一八九〇）に建設された南禅寺が大きくなり、都の食文化を支えるようになりました。

② インクライン界隈

琵琶湖から京都盆地へ疏水が完成し、琵琶湖から京都まで舟で物資を運べるようになりました。蹴上の三十六メートルの高低差は、斜面に二本のトンネルで、山の両側から掘るほか、山上の上部を垂直に穴を掘つてそこから両側へ掘り進める方式も採用されました。また疏水の建設に必要な大量のレンガを焼くため新しく工場をつくり、そこで一千万個にもものぼるレンガを焼きました。このレンガ工場は現在の御陵駅の北側あたりにありました。

③ 南禅寺と別邸群

南禅寺周辺の土地は、当初は水車をつかつた工業団地となる予定でした。ところが蹴上の発電所ができたことで主な動力は水車から電気に移り、この界隈の土地は高級別荘地へ転用されます。別荘には疏水の水が引かれ、流れと池のある自然風の庭が次々とつくられました。自然の湧水などをつかつていた寺院の庭にも疏水は引かれました。こうして、南禅寺周辺では水路が網の目のように張りめぐらされることになったのです。また、庭の池には疏水を通して琵琶湖の生き物も流れ込みました。現在の琵琶湖ではほとんど見られなくなった魚や貝が岡崎では今も生き続けています。

業博覧会です。幕末の戦災と明治維新後の東京遷都で衰退した京都に、再び活気を取りもどすことが目的でした。

一方、五年がかりで完成した琵琶湖疏水は、岡崎における水の使い道を大きく広げました。古くからこの地では白川などの水を寺院の池や農業用水や水車動力といつたさまざまな用途につかってきました。そこに琵琶湖疏水が通されたことで、水運、発電、工業、別荘の庭園など、より大規模な水利が可能になりました。

現在、岡崎をあるくと、京都では珍しく、行く先々で水の姿を見ることができます。それは、白川などの河川と琵琶湖疏水の水をさまざまにつかってきただからこそ。岡崎の独特的景観が生まれた理由のひとつに、豊富な水を多目的につかってきたことがあります。

平成二十七年（二〇一五）、岡崎を中心として南禅寺周辺から鴨川にかけての広い地域が、「京都岡崎の文化的景観」という名前で、国の文化財のひとつである重要文化的景観に選ばれました。

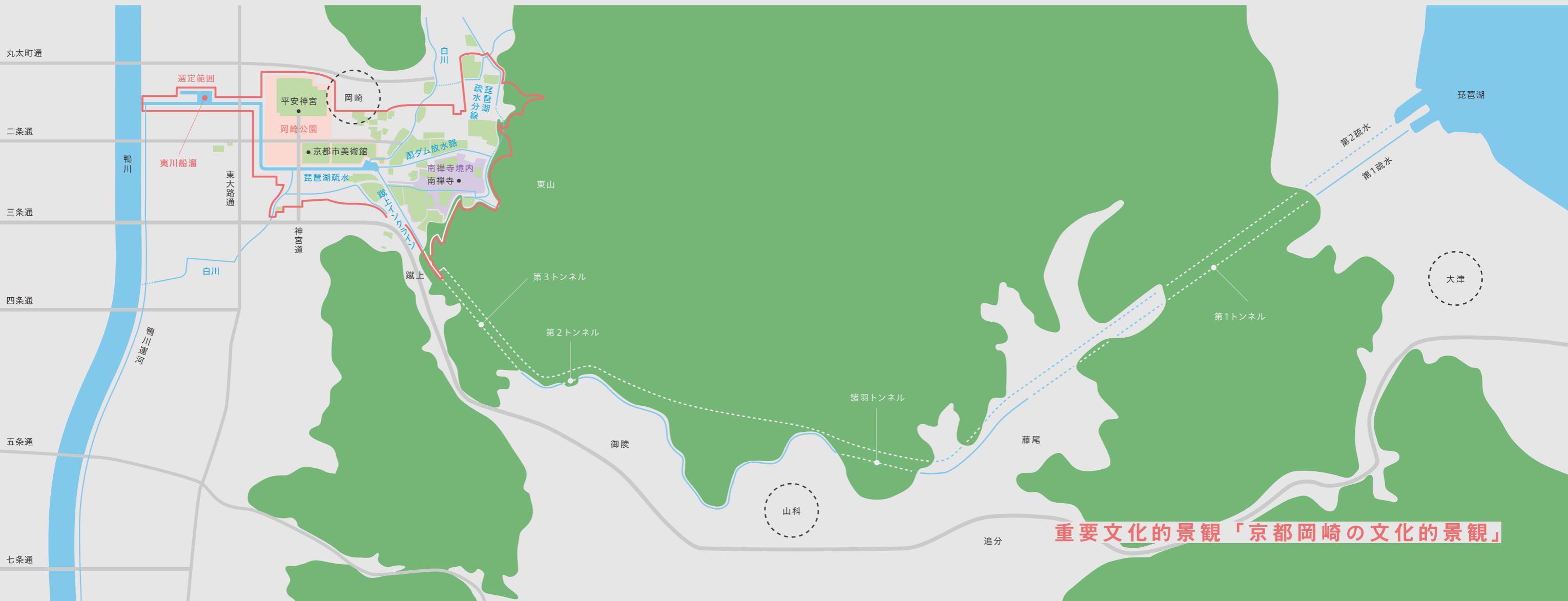
④ 岡崎公園

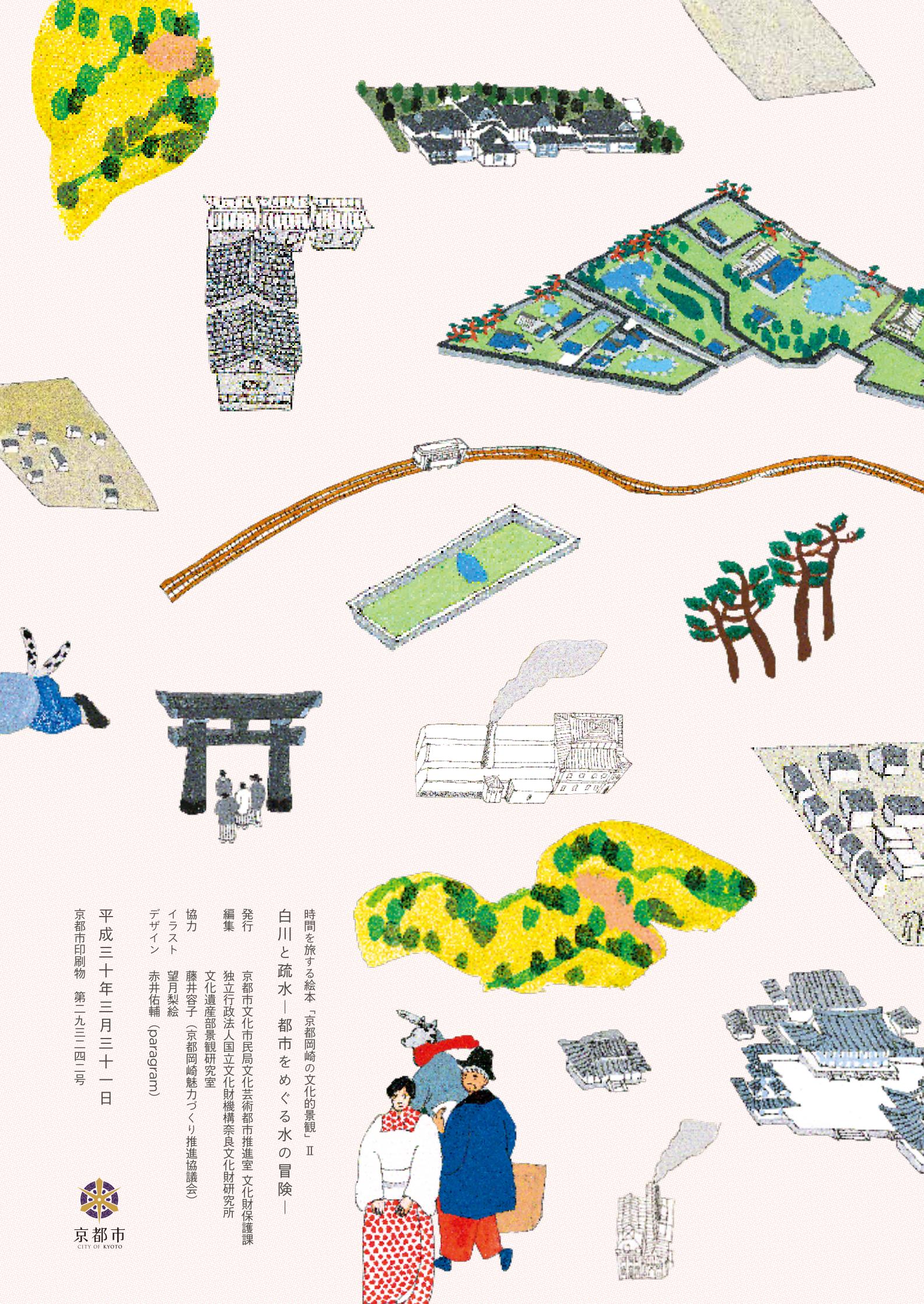
白川扇状地の中心部には、平安時代に巨大な寺院が建てられていました。その後、農地になっていましたが、明治二十八年（一八九五）、平安神宮が創建され、続いて博覧会の舞台となることで再び景観が一変します。博覧会場には疏水を利用した噴水やパビリオンがつくられました。七八頁では、昭和三年（一九二八）の大礼記念京都大博覧会の様子を描いています。蹴上発電所からの電力をつかって、なんと夜のライトアップがおこなわれていたのです。平安神宮大鳥居の南側には「新京阪電飾橋」という橋も架かっていました。

⑤ 琵琶湖から大阪港まで

明治二十七年（一八九四）には鴨川合流点から伏見までの区間も開通し、琵琶湖と大阪湾を結ぶ長大な水の路が完成しました。川と舟が重要な輸送手段だったこの頃、伏見は日本最大の河港であり、琵琶湖疏水の舟運も大いに利用されました。昭和に入るとなれば、主に鉄道で輸送が行われます。しかし、昭和四十年代以降、遊覧船が再び運航されるようになります。時代や都市の営みを反映して、琵琶湖疏水の役割は変化しつづけています。

琵琶湖疏水は、岡崎における水の使い道を大きく広げました。古くからこの地では白川などの水を寺院の池や農業用水や水車動力といつたさまざまな用途につかってきました。そこに琵琶湖疏水が通されたことで、水運、発電、工業、別荘の庭園など、より大規模な水利が可能になりました。





時間を旅する絵本 「京都岡崎の文化的景観」Ⅱ
白川と疏水—都市をめぐる水の冒險—

発行 京都市文化市民局文化芸術都市推進室 文化財保護課
編集 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
文化遺産部景観研究室

協力 藤井容子（京都岡崎魅力づくり推進協議会）
イラスト 望月梨絵
デザイン 赤井佑輔 (paragram)

平成三十年三月三十一日
京都市印刷物 第二九三二四二号